

精神医学

科目責任者 古 郡 規 雄
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

人間の健康は身体的、精神的、社会的な面から調和のとれた状態とされる。身体的にはいかに頑強であっても、精神障害に罹患した場合、健康は大いに損なわれる。社会情勢の激変に伴うストレスの増加によって、人間のこころはさらに危機にさらされ、医学の領域だけでなく、社会一般にとっても、精神医学の重要性はいつそう大きくなるだろう。近年のニューロサイエンスの急速な発展に伴い、統合失調症や双極性障害といった精神障害の生物学的な病因究明や治療の可能性がさらに開けていくことと思われる。精神医学に関する豊富な知識を持つことが、全ての医師に要求される時代である。

II. 担当教員

教授 古 郡 規 雄
教授 井 原 裕 (埼玉医療センターこころの診療科)
准教授 菅 原 典 夫
講師 川 俣 安 史
助教 佐々木 太 郎
非常勤講師 岡 安 寛 明
非常勤講師 佐 伯 吉 規
非常勤助教 篠 崎 将 貴

III. 一般学習目標

精神医学においては、人間の精神機能および関連した中枢機能の失調・障害について、その発生機序・症状・状態像および類型について学習する。またそれらを把握し、治療へとつなげるための精神を病む人々に対する面接の仕方および生理的・生化学的検査法・画像診断核医学的検査や心理テストなどを用いた病態探索法・診断法さらに、薬物療法その他の身体療法・精神療法・リハビリテーションなどの治療法を学ぶ。上記事項に加えてそれら精神病理現象の社会的関連性・社会的対策などまでを、講義及び臨床実習において医学の他領域との関連のもとに多面的に習得する。

IV. 学修の到達目標

これらを通じて、精神的異常のみならず、人間における心身相関のあり方の理解、病める人間としての患者の理解と対応の仕方、医師、患者、家族関係など、臨床全領域に通ずる医師としての基本的素養の育成が目指される。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	6	9	火	1	医学英語Ⅲ	古 郡 規 雄	1
2		9	火	2	精神医学とは	古 郡 規 雄	1
3		9	火	3	精神科症状学	古 郡 規 雄	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
4	6	9	火	4	精神科検査（心理検査含む）	古 郡 規 雄	1
5		9	火	5	精神科治療	古 郡 規 雄	1
6		10	水	1	統合失調症	菅 原 典 夫	1
7		10	水	2	パーソナリティ障害	菅 原 典 夫	1
8		10	水	3	物質依存・中毒性精神障害	菅 原 典 夫	1
9		10	水	4	老年期精神障害（認知症を除く）	菅 原 典 夫	1
10		10	水	5	気分障害	岡 安 寛 明	1
11		11	木	3	病状性精神障害	佐 伯 吉 規	1
12		11	木	4	強迫性障害, PTSD, パニック障害	川 俣 安 史	1
13		11	木	5	解離性障害・中毒性精神障害	川 俣 安 史	1
14		12	金	1	精神発達の障害（ADHD, ASD） 思春期の精神障害（摂食障害・不登校など）	井 原 裕	1
15		12	金	2	睡眠障害・時間生物学	佐々木 太 郎	1
16		12	金	3	精神保健福祉法	篠 崎 将 貴	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

テストの結果（70％）に出席状況（30％）を加味して総合評価する。
定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考書・AV資料

参考図書 現代臨床精神医学（改訂第11版）大熊輝雄著 金原出版 2008年

VIII. 質問への対応方法

講義終了後に可能な限り受け付ける。その他は秘書にアポイントをとった後、教室まで来ていただくことになる。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オープンオフィスによる個人面談。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバスに記載がない場合要点を確認しておくこと。（所要時間20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。